

## 新潟県納税貯蓄組合総連合会長賞 優秀

### 税と私達の暮らし

新潟大学教育学部附属長岡中学校

三年 森 あおい

我が国における税の始まりについて、調べてみたところ驚くことに神へのお供え物がそもそもの始まりだと言われているらしい。

しかしながら、諸説あるとのことでした。

本来税というものはどういうものなのでしょうか。

私が思うに税制というものは国民の助け合い精神が根本にあると思います。国民が利益を得た中から、その収入に見合った金額を国に税として納付し、その集まった税を主に公共の益に寄与させるべく、政治家が公配方法を決めていく。

さて、現代の税の使い方はどのようにという分野に割り振りしているのでしょうか。

私は小学二年生のときに父を亡くしました。今、私は受験生で私立高校に入りたいと思っています。私立は授業料が高く、母子家庭の私には到底入ることができません。しかし就学支援制度で補助を受ける事ができると知りました。収入が少ない人でも支援によって良い教育を受けられるようになりました。このことは、将来国家に携わる優秀な人材を育てる

ことに繋がる重要な政策だと思えます。

次に医療福祉について考えてみました。

かつて私は三歳ぐらいから小児喘息で入院、治療を繰り返してきましたが、長岡市における医療費助成を受け、少額の医療費支払いで済み、母はとても助かったと言っていました。

これも税制度の恩恵を受けていると感じました。

また、私が小学生の時も税制の恩恵を受けていました。それは放課後を児童館で過ごせた事です。児童館の運営は、各自治体によってその差こそあれ、かなり安価な自己負担で済むようです。これにも、児童福祉についての税政策がしつかりと行われていると感じます。母と話をしたときに、「私が小学生の頃は、家に祖父や祖母がいたので家に帰っても寂しくなかったけれど、お友達の中には鍵を持たされて一人でお留守番していた子もいたんだよ。今の時代は、親が安心して働けるからいい時代だね。」と、母が話をしていました。

このように、私たちの生活の中で普段はそれほど気づくこともなく、当たり前のように生活をしている中でも、少し興味深く考えてみただけで、税制がこんなにも身近に私たちを助けているんだなあと感じました。今後も、もっともっと日本国の税のあり方について、深く考えていきたいと思えます。